

■臨床心理学専攻博士後期課程授業科目名・講義等の概要

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
臨床心理学研究法Ⅰ	各研究指導 教員	臨床心理学における多様な研究法を、「調査研究」「実験研究」「実践研究」に分けることができるが、この授業ではそのいずれかを取り上げ、方法論的吟味を行う。 例えば、調査研究は「質的調査」と「量的調査」に分けることができる。質的調査のデータ収集法として「観察」「面接」「フィールドワーク」があり、データ整理法として「グラウンデッドセオリー」「KJ法」「IPA」などある。量的調査には「尺度作成」がある。実験研究には従来型の「実験」に加え、現実生活の場により近い状況で行われる「準実験」、一人の個人を対象とする「単一事例実験」などがある。
臨床心理学研究法Ⅱ		臨床心理学研究法Ⅱでは、臨床心理学研究法Ⅰにおける方法論的吟味をふまえ、特に学会発表を念頭に研究成果の公表を行いうる能力を身につけることをめざす。さらに、研究遂行上ならびに研究公表上の倫理についても省察する。
臨床心理査定・面接研究Ⅰ		臨床心理査定・面接研究Ⅰ・Ⅱを通して、臨床心理学の主要課題である臨床心理査定および面接について、理論的かつ実践的な課題を考察する。Ⅰにおける査定研究では、心理テスト・面接・観察による査定および精神障害の分類枠としてのDSMについて考究する。また、心理テストの信頼性・妥当性・データの処理について吟味する。面接研究では、心理療法の主要なアプローチについて、その人間観・人格理論・病理論・援助目標・援助関係・援助技法・適用疾患ならびにその課題について比較・検討する。さらに、援助過程・援助成果に関する研究結果を考察する。
臨床心理査定・面接研究Ⅱ		臨床心理査定・面接研究Ⅱにおいては、査定・面接の実務面に熟達し、その課題を吟味する。具体的には、自分か実際に担当したインテーク面接事例・臨床アセスメント事例・援助介入事例・終結事例などについて、事例の見立て、援助方針（目標・方法・治療構造）の設定、展開のし方（ケース・マネジメント、転移・抵抗の扱い）、終結のあり方などに関して、スーパーヴィジョンやケース・カンファレンスを通して検討する。そして、その成果を事例研究論文として作成し、学会発表・専門誌への投稿を目指す。
臨床心理学研究Ⅰ		臨床心理学研究は、基礎と実践をつなぐ総合的な研究領域である。その対象は、個人とその個人を取り巻く関係性における様々な現象である。臨床心理学研究Ⅰでは、そうした現象のメカニズムを解明するとともに、その現象に対する臨床心理学的介入や支援について研究する。ここでは、研究仮説の妥当性や研究対象として選択した現象の妥当性、その解明に必要な方法論について十分な検討を行う。次に実際に調査研究、実験研究、実践研究などを行い、必要なデータを収集する。
臨床心理学研究Ⅱ		臨床心理学研究Ⅱでは、臨床心理学研究Ⅰで行った調査研究や実験研究、実践研究などで得られたデータの分析を通して研究結果を考察する。結果は、目的と仮説を適切に反映するように論理的に展開する。考察では、従来の知見との整合性や新たな知見などに基づいて仮説の妥当性について検討する。さらに、従来の研究とは異なる知見や新たに発見された知見に基づいて、新たな理論的枠組みの創造や介入方法の可能性について検討する。
人格心理学研究		2017年度非開講
発達心理学研究	谷口 清	臨床心理学において発達研究は人格形成のプロセス、メカニズムを知る不可欠の基礎領域である。発達は世代の継承を果たすための個体のプロセスである。発達心理学は心の発達（精神機能形成）のプロセス、メカニズムを明らかにする科学である。この授業では、J.ボウルビィ「母子関係の理論Ⅰ 愛着行動」等をテキストとし、その輪読を通して発達現象の問題、理論、方法に総合的にアプローチする。発達研究の視点、方法論の習得を通して臨床心理学研究への基礎的資質を養う。
異常心理学研究	高尾 浩幸	心理臨床において、重要な柱の一つである、異常心理について検討を加える。具体的な事例をとりあげ、発達論的、家族論的、生理論的、疾病論的、人格論的、力動論的、社会論的、文化論的な観点から、多角的に考察を加えることで、臨床的な洞察力の向上を目指したい。

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
心理療法研究Ⅰ (遊戯療法)	伊藤 研一	遊戯療法の基本的な考え方、ケースの読み方について、事例をもとにして検討する。子どものケースは成人のケースに比べて、問題があらわれるまでの歴史が短いので、そのストーリー(土居)を読むことが難しくないことが多い。この点で教育的価値が高い。後半では参加者に事例を提出してもらい、それを検討する。
心理療法研究Ⅱ (箱庭療法)	高尾 浩幸	箱庭療法は、相談所や医療機関などで、おもに子どもの心理療法として効果的であるため、広く用いられている。体験学習を通して、論理・技法を習得し、臨床場面で活用できるようにする。さらに実践的事例にあたり、批判的討論によって高度の読み取りと解釈法を考察してゆきたい。
心理療法研究Ⅲ (認知行動療法)	今野 義孝	行動療法の歴史は、学習理論を忠実に適用して行動変容を目指した第一世代から、認知過程を重視して認知・感情・行動の変容を目指した第二世代を経て、現在は「とらわれから自己を解放するマインドフルネスの態度」を中心とする第三世代に入っている。こうした経過は、人間を過去－現在－未来という観点や全人的な観点から捉え直すことによってもたらされたものである。この講義では、こうした歴史的な経緯を踏まえて、認知行動療法の今を捉え、さらにそこから未来の認知行動療法を想像・創造していきたい。
心理療法研究Ⅳ (統合的心理療法)	伊藤 研一	心理療法の統合のあり方は、大きく分けて三つに分けられる。それは①心理療法としての抽象度が似通った技法同士の統合、②心理療法としての抽象度が異なる技法同士、あるいは心理療法と他の援助方法との統合、③治療者の中での統合、である。本講義では①について、フォーカシングを軸にした内観療法、臨床動作法との統合、②について遊戯療法と家族療法、心理療法とケースワーク、学習援助との統合、③について主にセラピスト・フォーカシングをあげて説明する。
心理療法研究Ⅴ (スーパーヴィジョン技法)	布柴 靖枝	臨床心理士の訓練に欠かせないスーパーヴィジョンについて、理論的かつ実践的に習得する。①スーパーヴィジョンに関する理論・モデル、スーパーヴァイザーとスーパーヴァイジーの関係、スーパーヴァイザーの適格性、スーパーヴァイジーの発達段階、スーパーヴィジョンの課題・方法・倫理等について学習する：②上記の知見を活かして、スーパーヴィジョンロールプレーを行い、実践的に学ぶ。

